

問2

最低気温、最高気温の
特徴について

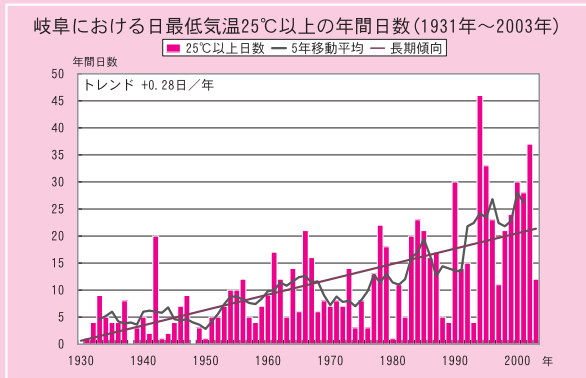
答え グラフ2は、月別最高気温（以下最高）の年平均をグラフ化したものですが、1883年は18・9度でしたが、2003年は20・5度と上昇しています。長期傾向で見ると、年間0・01度の上昇率となっています。

また、グラフ3は、月別最低気温（以下最低）の年平均をグラフ化したものですが、1883年は8・8度でしたが、2003年は11・9度となっています。

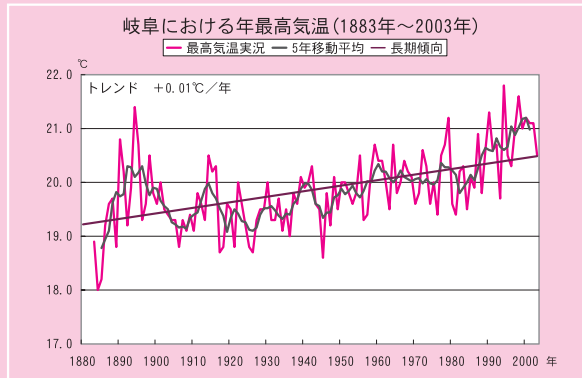
長期傾向で見ると、年間0・02度の上昇率となっています。このことから、最高の上昇幅より、最低の上昇幅が大きいことが分かります。

また、1990年以降の気温上昇の特徴として、次のことが分かります。グラフ4は、1931年以降の熱帯夜（日最低気温が25・0度以上の日）の年間日数を表しています。1930年代の熱帯夜は、わずか数日であったのが、1990年以降大幅に増えています。グラフ5は、さらに酷暑といわれる日（日最高気温が35・0度以上

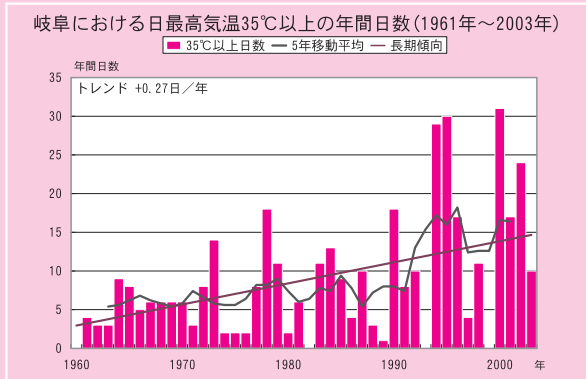
グラフ4



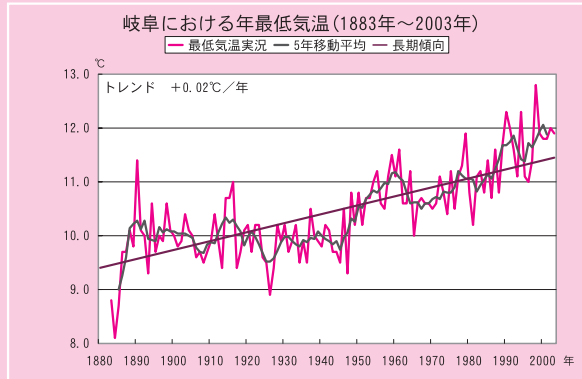
グラフ2



グラフ5



グラフ3



問3

ヒートアイランド現象
の影響は

の日）の年間日数（1961年以降）を表しています。このグラフでも、1990年以降大幅に増えていることが分かります。

答え 気温の上昇について、最近「ヒートアイランド現象」の影響があるのではないかとわれています。このヒートアイランド現象とは、「都市部の地表面の熱収支が道路舗装や建築物などの増加や冷暖房などの人口廃熱の増加により変化し、都市部の気温が郊外に比べて高くなる現象」「都市化が気候に及ぼす影響（気象庁 古橋慎哉）」をいいますが、岐阜の気温上昇にどれだけ影響しているのかは、今後の調査によります。

今までお話ししたとおり、確実に地球規模の温暖化の影響は、この岐阜県でも現れています。温暖化が進むと環境・気候が大きく変わることが予想されます。今後は、温暖化予測技術の向上と防止対策が急がれます。